

平成 23 年度

学校経営計画

(中間評価)

広島県立庄原特別支援学校

目 次

平成 23 年度	学校経営計画	・ ・ ・ ・ ・ 1
平成 23 年度	自己評価シート（中間評価）	・ ・ 4
平成 23 年度	自己評価シート（中間評価まとめ）	・ 6
平成 23 年度	学校関係者評価シート（中間）	・ ・ ・ 7

平成23年度学校経営計画

平成21年度～平成23年度

校番	113	学校名	庄原特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	☎・定・通	📠・分
----	-----	-----	----------	------	-------	-------	-----

1 ミッション（地域社会における自校の使命）

県北地域における唯一の特別支援学校として、専門性に基づく教育機能を発揮し児童生徒の生きる力を育成するとともに、地域のセンター的役割を果たす。

2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

- ① 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。
- ② 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。
- ③ 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。
- ④ 育てたい子ども像
 知：学習活動をとおして、自ら学び伸びようとする子ども。
 徳：人との関わりの中で、他者を尊重する心を持つ子ども。
 体：健康で安全に生活できる知識と体力を身につけた子ども。
 言語活動：理解できる言葉を多く持ち、自分の意思を伝えるスキルを身につけている子ども。

3 環境分析

(1) 平成23年度児童生徒在籍者数および障害別区分

	小学部	中学部	高等部	計	
在籍者数	12	10	42	64	
療育手帳	㉠	6	3	3	12
	A	5	3	15	23
	㉡	1	3	5	9
	B	0	1	18	19
身体障害者手帳	7	3	7	17	
手帳なし	0	0	1	1	

(2) 児童生徒および地域の実態と教育課題

- ア 児童生徒数が年々増加傾向にあり、それに伴って障害も多様化している。個々の児童生徒の教育的ニーズを明確にし、個別の指導計画に基づいて各授業が計画的・効果的に実施できるよう、単元計画、指導略案を充実することで授業改善を図る。
- イ 高等部において、知的障害が軽度の生徒が増加傾向にあるため、作業学習、就業体験学習、職場実習などのキャリア教育の充実を図り、就労希望者の進路を実現する必要がある。
- ウ 教育相談主任の配置に伴い、センター的機能の充実を図り、特別支援教育の情報発信はもとより、県北地域の小・中・高等学校等における特別支援教育の情報を有機的に結びつけ、同一テーマによる授業研究を実施することで特別支援教育の発展を図る。

(3) 現状分析

- ア 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。
- (ア) 外部講師・内部講師による講演会等の実施。テーマに基づく一人一研究授業を行った。(年間43回)
- (イ) 領域・教科を合わせた指導の改善を図るため高等部の教育課程を類型別にし、内容を生徒実態の年間指導計画を作成した。
- (ウ) 児童生徒の健康の保持に努め、健康教育や食育を充実させるため、年間8回の授業を行った。
- (エ) 生徒指導規定を作成できなかった。
- (オ) 進路指導充実のため、関係機関との連携を強化し、就労体験先開拓15件になった。
- イ 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。
- (ア) 教育相談や特別支援教育に関する情報の充実を図り、教育相談件数が179件になった。
- (イ) 小中高等学校を始めとする関係諸機関との連携を強化し、支援件数が144件になった。
- ウ 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。
- (ア) ホームページを始めとして、学校情報の発信を定期的に行った。(月3回以上の更新)
- (イ) 保護者や学校関係者のニーズを反映した学校教育充実に向けてアンケートを実施した。(アンケートの回収率93.3%)
- (ウ) 地震避難訓練を行う等、年間6回の避難訓練を実施した。
- (エ) 安全点検を実施し改善率85.5%となった。

4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
1 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。						
教職員の専門性の向上を図る。	研修会の回数	----	----	----	新規40回	教育研究部
専門性に基づく教育課程の編成	評価の実施	未実施	実施した(実施する)	評価の実施70%	評価の実施80%	教務部
児童生徒の健康の保持に努め、健康教育や食育を充実させる。	食育の授業	未実施	年間6回(年間3回)	年間8回	年間6回以上	保健部
生徒指導に係る方針を策定し、生徒指導の充実を図る。	生徒指導方針の確立	未実施	方針、マニュアルの確立	未作成	生徒指導規の作成	生徒指導部
進路指導充実のため、関係機関との連携を強化する。	就業体験先の開拓	就業体験先年2件	9件(体験先開拓年3件以上)	15件(体験先開拓年5件以上)	体験先開拓年6件以上	進路指導部
	校内検定通過率	----	----	----	新規事業 校内検定受験者100パーセント通過	進路指導部
2 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。						
教育相談や特別支援教育に関する情報の充実を図る。	教育相談回数	年46回	年64回(年50回)	179回(年55回)	年60回	地域支援部
小中高等学校を始めとする関係諸機関との連携を強化する。	小中高等学校への支援回数	年間3件	年98件(年間60件以上)	144件(年間65件以上)	年間70件以上	
3 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。						
ホームページを始めとして、学校情報の発信を定期的に行う。	発信回数	毎月1回	毎月3回(毎月3回)	毎月3回(毎月3回)	毎月3回	教育研修部
保護者及び通学区域内小中学校へのアンケートを実施し、学校に対するニーズを把握する。	アンケート回収率	80.00%	93.3%(90%以上)	保護者99.9% 小中学校85.7%(60%以上)	70%以上	総務部
災害等に対する避難の検討整備を図る。(安全)	年間6回以上の訓練を行う。	5回	6回(6回)	7回	6回	保健部
学校環境整備を進め、安心して学べる学校をつくる。	毎月1回の安全点検により、修理必要箇所の改善を図る。	達成	85.5%(83.0)	95.0%(87.5%)	90%	事務部

5 行動計画

学校経営目標				
	達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。				
	特別支援教育に関する教職員の専門性の向上のため、研究・研修活動を推進し、授業改善に取り組む。また、その成果の発表の場として、公開研究会を実施する。	各学部で、テーマに基づいた一人1回の研究授業をとおして授業改善を推進する。	外部講師・内部講師による講演会等の実施。各学部でテーマに基づく授業研究を行う。	教育研究部
	児童生徒が見通しを持って、自主的に活動できるようになる。	「生活単元学習」「作業学習」の単元計画を作成し、その評価に基づき授業改善を行う。	領域教科を合わせた指導の改善を図る。	教務部
	健康教育や食育を充実させ、児童生徒が健康の保持を意識できる。	食育に係る年間計画を作成し、学部学年ごとに食育の授業を行う。	児童生徒の健康の保持に努め、健康教育や食育を充実させる。	保健部
	生徒指導に係る方針を策定し、生徒指導の充実を図る。	安全指導や社会生活に必要なマナーを指導するための指導方針を作成する。自主的な活動を支援する方法を検討する。	児童生徒が社会生活に必要なマナーや自主的な力を育てるため生徒指導を充実させる。	生徒指導部
	就業体験・職場実習を充実させ、児童生徒が主体的に進路学習に取り組むことができる。	関係機関との連携を図り、就業体験先を開拓すると同時に、就業体験・職場実習を充実させる。	進路指導充実のため、関係機関との連携を強化する。	進路指導部
	高等部作業学習において、清掃活動を行い、生徒が就労への意欲を高める。	高等部作業学習で校内で、東京都の検定基準を用い、清掃の検定を実施する。	広島県特別支援学校就職支援プロジェクト事業の検定基準に則り校内の作業学習において清掃部門を起こし、作業学習の充実を図る。	進路指導部
2 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。				
	小・中学校等に対する有効な支援の実施	地域支援センターの充実を図り、実態把握、相談支援、情報の収集整理、情報発信の場として機能させる。	教育相談や特別支援教育に関する情報の充実を図る。	地域支援部
	就学前からの一貫した支援体制づくりの推進	小中高等学校への支援を拡大させ、共同研究を目指して特別支援教育の充実を図る。	小中高等学校を始めとする関係諸機関との連携を強化する。	地域支援部
3 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。				
	公開性の原則に基づき、学校の情報を積極的に提供し、説明責任を果たしていく。	ホームページを始めとして、学校情報の発信を定期的に行う。	学校教育活動等の公開を、組織的定期的にすすめる。	教育研究部
	アンケートの結果を児童生徒の学習活動に反映させ、保護者の学校に対する信頼性の向上を図る。	保護者及び通学区域内小中学校へのアンケートを実施し、学校に対するニーズを把握する。	アンケートの実施により学校へのニーズを把握する。	総務部
	より現実に近い様々なパターンの防災避難訓練等を行い、児童生徒が防災に関して意識できる。	年間6回以上の防災避難訓練等を行う。	危険時における対処要領を策定し、計画的に避難訓練等を行う。	保健部
	学校環境整備を進め、安心して学べる学校をつくる。	安全点検や環境整備を定期的に行うとともに、学校施設や設備の長期的改善計画を策定する。	学校学習環境の検討・整備を行う。	事務部

平成23年度自己評価シート（中間評価）

校番	113	学校名	広島県立庄原特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	(全)定・通	(本)分
----	-----	-----	--------------	------	-------	--------	------

学校経営目標

達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業の改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。				
(1) 教職員の専門性の向上を図る。	研修会の回数	C	指導助言者を招き、全体研修会を行った。校内研究授業は10月から行う予定なので、まだ実施していない。	教育研究部
(2) 専門性に基づく教育課程の編成。	評価の実施	C	生活単元学習と作業学習の各単元において、評価規準に基づき評価した結果、Cの割合が高かった。	教務部
(3) 児童生徒の健康の保持に努め、健康教育や食育を充実させる。	食育の授業	D	本目標に関する下位項目において、児童生徒の変容が20%しか見られなかった。	保健部
(4) 生徒指導に係る方針を策定し、生徒指導の充実を図る。	生徒指導方針の確立	A	高等部生徒指導規定を作成し、教職員に配布及び周知をした。また、授業において、高等部全体で高等部生徒指導規定について指導した。	生徒指導部
(5) 進路指導充実のため、関係機関との連携を強化する。	就業体験先の開拓	B	現在新規開拓した就業体験先は7件である。今後も引き続き開拓をする予定である。	進路指導部
	校内検定通過率		9月末に校内検定を実施する予定。	進路指導部

【評価結果の分析】

- 今年度の研究テーマに関わって西本指導主事に指導助言を頂き、研修会を開催した。各学部の授業研究は、10月からの実施予定だが、各学部とも研究授業の実施に向けて取り組み中である。また各学部とも講師を招き、全体研修会を行う予定である。一人一回研究授業は、計画通り6月から各学部で行っている。
- 評価規準に基づき児童生徒を評価したところ、小・中学部はC、高等部ではBの割合が高かった。全体では評価規準Aの割合が4.16%、Bが33.16%、Cが43.1%、Dが19.62%だった。
- 評価の下位項目として、食事前の手洗い、食事のマナー、食事の片付けの3点について、児童生徒の変容に関するアンケート調査を行った。事前の実態調査を6月中旬に行い中間評価にあたっての調査を9月初旬に実施したため、具体的な指導をする時間が十分に無く、結果を出せていない状況である。
- 生徒指導に係る方針では、高等部生徒指導規定を作成し、生徒に指導を行い、生徒指導の充実に向けた。運転免許に関わることで違反があり、生徒及び保護者に対して指導を行った。また、服装が華美な生徒については担任を通じて指導を行った。指導後は、違反等の問題行動は起きていない。
- JSTが週2回本校に配置されたことで、新規就業体験の開拓は進んでいる。現在は7社を新規開拓し、そのうち5社で就業体験を実施した。2社については、後期に高等部1年を中心に就業体験の予定である。

【今後の改善方策】

- 10月までに教育研究部で校内研究授業の実施要項を作成し、授業研究等の充実を図り、公開授業研究会につなげる。
- 後期は、評価規準DからCへ、CからBへ、BからAへと割合を高めるために、さらに授業の振り返りをていねいに行い、日々の授業に活かす。さらに単元計画を見直す。また、児童生徒の変容による評価がより分かりやすいように、評価規準について、来年度に向けて検討する。
- 始業式等の機会に評価下位項目に関する指導を行う。また、高等部生徒を対象に12月中旬までに特設の食育全般に関する指導の機会を設ける。また、12月中旬までに感染症予防に関する職員研修を計画する。
- 生徒指導の充実が図られるように、日々の生徒指導を教職員が連携を行って進めていく。また、問題行動等が発生した場合は、生徒指導主事を中心に「報告・連絡・相談」を速やかに行うとともに「確認・記録」をしていく。
- JSTが新規開拓を担っているが、それだけではなく、たとえば庄原市企業人権啓発推進連絡協議会等に働きかけ、就業体験や職場実習を依頼していきたい。また、同連絡協議会等に本校高等部の作業学習を参観していただき、生徒の状況を実際に見てもらおう等の取り組みを企画していきたい。

2 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。

(1) 教育相談や特別支援教育に関する情報の充実を図る。	教育相談回数	C	目標値60回は達成したが、アンケート回答を待っているため、Cとした。現在の回答状況は、実態の理解等に変容があったとの傾向がみられている。	地域支援部
(2) 小中高等学校を始めとする関係諸機関との連携を強化する。	小中高等学校への支援回数	C	目標値70件は達成したが、アンケート回答を待っているため、Cとした。アンケートの回答状況は、支援の過程において個の変容があったとの傾向がみられている。	

【評価結果の分析】

- 学校訪問相談はほぼ終了し、現在アンケートの回答待ちである。アンケートの回答をより円滑に実施できるよう、方法等を改善する。
- 地域支援のニーズは、高等学校等への拡がりもあり、支援の依頼が増加傾向である。
- 主訴や現時点でのアンケート回答から、地域支援のニーズは、障害のある児童生徒理解、学習支援、日常生活スキルの習得、問題行動を減らす指導等の傾向がうかがえる。

様式3

【今後の改善方策】

- (1) アンケートが改善できるよう連絡をとる。
- (2) センターの機能については、ニーズが拡大し即応性にも課題があることから、体制整備について平成24年2月までに校務運営会議で協議を行い、各学部・分掌が参画できる組織的センター的機能体制の充実を図る。
- (3) 早期からの実態把握や組織的取組の充実のため、小中連携や情報提供の充実を図っていく。

3 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。				
(1) ホームページを始めとして、学校情報の発信を定期的に行う。	発信回数	B	HPの見直しを行いリニューアルした。平均月4回の更新を行った。	教育企画部
(2) 保護者及び通学区域内小中学校へのアンケートを実施し、学校に対するニーズを把握する。	アンケート回収率	B	参観日における保護者の出席率が70%に達していない。通学区域内小中学校へのアンケートは未実施。	総務部
(3) 災害等に対する避難の検討整備を図る。(安全)	年間6回以上の訓練を行う。	D	本目標に関する下位項目において、児童生徒の変容が23%しか見られなかった。	保健部
(4) 学校環境整備を進め、安心して学べる学校をつくる。	毎月1回の安全点検により、修理必要箇所の改善を図る。	B	安全点検による要改善箇所の改修率が64%である。	事務部

【評価結果の分析】

- (1) ホームページの構成等を見直し、リニューアルを行った。更新についても、平均月4回の更新ができた。
- (2) アンケートによると個別懇談期間に関しては概ね好評であるが、参観日に関しては保護者からの期待感を感じられる意見が少なかった。小中学部の参観日における参加率は高いが高等部の参加率が低い。
- (3) 評価の下位項目として、防災意識、安全に関する意識、教室移動時における戸締まりの3点について、児童生徒の変容に関するアンケート調査を行った。事前の実態調査が6月中旬で中間評価にあたっての調査が9月初旬であったため、その期間に具体的な訓練等の実施回数が1回と少なく、結果を出せていない状況である。年度始めから本評価時まで5回の避難訓練等を実施した。不審者を小室隔離する不審者侵入対応、授業時間中における緊急捜索、緊急地震速報利用等がこれまでの実践である。
- (4) 要改善内容が、校舎のリフレッシュ工事の中に計画されているものが含まれているため、改修方法について慎重に検討する必要があり先送りとなっているものが改修率を下げている。エアコンの故障が相次ぎ、その対応に予算を多くとられたため要改善箇所の改修ができなかった。

【今後の改善方策】

- (1) 項目ごとに更新の担当や更新方法を明確にし、更新がタイムリーに行えるようにしていく。また、ホームページ全体の更新状況を把握し、必要に応じて担当に依頼していく。
- (2) 11月の参観日までに、事前に参観授業の内容等文書で知らせるなど保護者に期待感を持たせる方策を講じる。
- (3) 10月に防火避難訓練を2回予定している。訓練内容として、引き続きより実際に近い避難訓練等を計画していく。現段階では、避難経路を制限したり、更に煙も発生させる等の避難訓練を予定している。
- (4) 当面リフレッシュ工事の施工の見込みがないことから、緊急を要するものから単独での改修を行う。予算不足のため執行ができていない箇所については、後期予算で計画的に執行する。

平成22年度自己評価シート（中間評価まとめ）

校番	113	学校名	広島県立庄原特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	全・定・通	本・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

- (1) 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。
- ア 今年度の研究テーマに関わって、研修会も開催し、西本指導主事に指導助言を頂いた。各学部の授業研究は、10月からの実施予定だが、各学部とも研究授業の実施に向けて取り組み中である。また各学部とも講師を招き、全体研修会を行う予定である。一人一回研究授業は、6月から各学部で行っている。
- イ 評価規準に基づき児童生徒を評価したところ、小・中学部はC、高等部ではBの割合が高かった。全体では評価規準Aの割合が4.16%、Bが33.16%、Cが43.1%、Dが19.62%だった。
- ウ 評価の下位項目として、食事前の手洗い、食事のマナー、食事の片付けの3点について、児童生徒の変容に関するアンケート調査を行った。事前の実態調査が6月中旬で中間評価にあたっての調査が9月初旬であったため、具体的な指導をする時間が十分に無く、結果を出せていない状況である。エ 生徒指導に係る方針では、高等部生徒指導規定を作成し、生徒指導を行い、生徒指導の充実を努めた。運転免許に関わることで違反があり、生徒及び保護者に対して指導を行った。また、服装が華美な生徒については担任を通じて指導を行った。指導後は、違反等の問題行動は起きていない。
- オ JSTが週2回本校に配置されたことで、新規就業体験の開拓は進んでいる。現在は7社を新規開拓し、そのうち5社で就業体験を実施した。2社については、後期に高等部1年を中心に修業体験の予定である。
- (2) 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。
- ア 学校訪問相談はほぼ終了し、現在アンケートの回答待ちである。アンケートをより円滑に実施できるよう、方法等を改善する。
- イ 地域支援のニーズは、高等学校等への拡がりもあり、増加傾向である。
- ウ 主訴や現時点でのアンケート回答から、地域支援のニーズは、児童生徒理解、学習支援、日常生活スキルの習得、問題行動を減らす指導等の傾向がうかがえる。
- (3) 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。
- ア ホームページの構成等を見直し、リニューアルを行った。更新についても、平均月4回の更新ができた。
- イ アンケートによると個別懇談期間に関しては概ね好評であるが、参観日に関しては保護者からの期待感を感じられる意見が少なかった。小中学部の参観日における参加率は高いが高等部の参加率が低い。
- ウ 評価の下位項目として、防災意識、安全に関する意識、教室移動時における戸締まりの3点について、児童生徒の変容に関するアンケート調査を行った。事前の実態調査が6月中旬で中間評価にあたっての調査が9月初旬であったため、その期間に具体的な訓練等の実施回数が1回と少なく、結果を出せていない状況である。年度始めから本評価時まで5回の避難訓練等を実施した。不審者を小室隔離する不審者侵入対応、授業時間中における緊急搜索、緊急地震速報利用等がこれまでの実践である。
- エ 要改善内容が、校舎のリフレッシュ工事の中に計画されているものが含まれているため、改修方法について慎重に検討する必要がある。先送りとなっているものが改修率を下げている。エアコンの故障が相次ぎ、その対応に予算を多くとられたため要改善箇所の改修ができなかった。

2 今後の改善方策

- (1) 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。
- ア 10月までに教育研究部で校内研究授業の実施要項を作成し、授業研究等の充実を図り、公開授業研究会につなげる。
- イ 後期は、評価規準DからCへ、CからBへ、BからAへと割合を高めるために、さらに授業の振り返りをていねいに行い、日々の授業に活かす。さらに単元計画を見直す。また、児童生徒の変容による評価がより分かりやすいように、評価規準について、来年度に向けて検討する。
- ウ 児童生徒集会、始業式等の機会に評価下位項目に関する指導を行う。また、高等部生徒を対象に12月中旬までに特設の食育全般に関する指導の機会を設ける。また、12月中旬までに感染症予防に関する職員研修を計画する。
- エ 生徒指導の充実を図られるように、日々の生徒指導を教職員が連携を行って進めていく。また、問題行動等が発生した場合は、「報告・連絡・相談」を速やかに行うとともに「確認・記録」をしていく。
- オ JSTが新規開拓を担っているが、それだけではなく、たとえば庄原市企業人権啓発推進連絡協議会等に働きかけ、就業体験や職場実習を依頼していきたい。また、同連絡協議会等に本校高等部の作業学習を参観していただき、生徒の状況を実際に見てもらおう等の取り組みを企画していきたい。
- (2) 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。
- ア 次年度については、アンケート方法の改善を図る。
- イ センター的機能については、ニーズが拡大し即応性にも課題があることから、体制整備について平成24年2月までに校務運営会議で協議を行い、各学部・分掌が参画できる組織的センター的機能体制の充実を図る。
- ウ 早期からの実態把握や組織的取組の充実のため、小中連携や情報提供の充実を図る必要がある。
- (3) 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。
- ア 項目ごとに更新の担当や更新方法を明確にし、更新がタイムリーに行えるようにしていく。また、ホームページ全体の更新状況を把握し、必要に応じて担当に依頼していく。
- イ 11月の参観日までに、事前に参観授業の内容等文書で知らせるなど保護者に期待感を持たせる方策を講じる。
- ウ 10月に防火避難訓練を2回予定している。訓練内容として、引き続きより実際に近い避難訓練等を計画していく。現段階では、避難経路を制限したり、更に煙も発生させる等の避難訓練を予定している。
- エ 当面リフレッシュ工事の施工の見込みがないことから、緊急を要するものから単独での改修を行う。予算不足のため執行ができてい

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策（学校関係者評価実施後に記入する。）

- (1) 特別支援教育に関する専門性を確立し、授業改善・充実により児童生徒の生きる力を育む。
- ・教育課程検討会議でまとめた課題を元に平成24年度の教育課程を編成する。
 - ・本年度末（平成24年3月末）までに来年度の研究テーマを決定し、来年度当初より研究が始められる体制を確立する。
 - ・研究授業及び平素の授業においても、本年度末（平成24年3月末）までに授業評価表を改善し年度当初より活用する。
 - ・学習評価については、目標・ねらいを明確にし、適切に評価する。
 - ・技能検定に向けて、作業学習の具体的な在り方を明確にし、来年度教育課程に盛り込む。
 - ・生徒指導の充実を図るために、生徒指導の三機能について引き続き生徒指導の研修をおこなうために、年間指導計画に盛り込む。
- (2) 相談や支援の態勢を整え、地域のセンター的機能を充実させる。
- ・小中高等学校への支援体制整備の充実のため、業務改善および引継ぎ体制の充実を図る。
 - ・地域との共同研究の推進の成果と課題をまとめ、次年度の支援方法を年度末までに提示する。
- (3) 信頼される学校を目指し、組織マネジメントを確立する。
- ・HPの更新をリアルタイムに行い、学校行事を始め学部・学級通信などの情報もUPできるよう情報公開の体制を強化する。
 - ・危機管理マニュアルを再点検することで、クライシスマネジメントを確立し児童生徒の安全を確保するとともに不祥事防止の取り組みを強化する。

平成23年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成23年10月18日

校番	113	学校名	庄原特別支援学校	校長氏名	東内 桂子	全・定・通	全日制・本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-------	--------

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部生徒指導規定については、あればいいと思いがち、評価できる。生徒も規定ができたことにより(規律を守る根拠)意識の向上につながるのではないかと期待しています。 ・指導略案は、専門的で丁寧な指導を感じられます。 ・HP等の更新による情報発信の着目点を評価します。 ・目標が達成できるか否かが不安です。 ・安易な目標になっていないか心配です。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部生徒指導規定の取組みは、早い対応・達成ができ、評価も適切だと思います。 ・研究授業や研究テーマを決める時期が遅いので、来年度のスタートが心配です。
目標達成に向けた取組みの適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ成長している生徒と指導略案を見て、専門的な指導ができていると感じました。 ・地域連携で参観等、学校内の状況を地域に認識してもらえる取組みは、評価します。 ・授業参観時に指導略案を数日前に配布していただいたら参観率もアップするのではないのでしょうか。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・数字の達成ではなく、内容の評価を厳しくしているので期待しています。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成の時期が設定してあるので期待が持てます。 ・高等部生徒指導規定については、徹底できる方策が具体的に見えるといいのですが。 ・中間評価時で、止むを得ないものかも知れませんが、改善方法をもう少し具体的に挙げてはどうでしょうか。 ・具体的に何を改善するのかわかりづらいので、改善方法を具体的に挙げて欲しい。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね適切だと思います、内容がもう少し具体的であれば見えてくるように思いました。